

平成 25 年 8 月 27 日

「ごみ処理広域化の市内全域説明会」を終えて

～ご質問・ご意見に対する市の考えのまとめ～

1 説明会について

クリーンセンターごみ焼却施設の建て替え（ごみ処理の広域化）について、市民の方からのご意見を伺うため、日野市民の方を対象に以下のように 6 月 26 日から市内全域で 8 回にわたり説明会を開催しました。

日付	会場	参加合計人数	地区内	地区外
6 月 26 日（水）	平山季重ふれあい館	39 人	19 人	20 人
6 月 27 日（木）	七生中学校食堂	38 人	32 人	6 人
6 月 28 日（金）	多摩平の森ふれあい館	52 人	24 人	28 人
6 月 30 日（日）	三沢中学校食堂	93 人	83 人	10 人
6 月 30 日（日）	生活・保健センター	78 人	42 人	36 人
7 月 3 日（水）	大坂上中学校食堂	30 人	17 人	13 人
7 月 4 日（木）	日野第三中学校食堂	40 人	24 人	16 人
7 月 5 日（金）	日野第四中学校食堂	62 人	34 人	28 人
合計		432 人	275 人	157 人

説明会では、多くの市民の方に参加していただき、また、ごみ処理の広域化に対して多くのご質問・ご意見をいただき、誠にありがとうございました。

日野市では、いただいた多くのご質問・ご意見を参考かつ十分に配慮し、ごみ処理の広域化についての検討を引き続き行っていきたいと考えています。

なお、説明会における配布資料、質疑概要・意見は日野市ホームページにて公開しておりますのでご覧ください。（ご覧になるには下記のアドレスにアクセスしてください。）

<http://www.city.hino.lg.jp/index.cfm/198,113747,314,2107,html>

2 説明会におけるご質問・ご意見と市の考えについて

説明会では、数多くのご質問・ご意見をいただきました。主なご質問・ご意見に対する市の考えを以下に示します。

Q1 小金井市や国分寺市のごみを処理しなければならない理由がわからない。なぜ、日野市が小金井市の尻拭いをしなければならないのか。

A 日野市では単独整備を計画していましたが、平成 24 年 4 月に小金井市、国分寺市から、日野市の建て替え計画にあわせて、可燃ごみを一緒に処理させて欲しい旨の申し出がありました。この申し出に対して日野市では検討を行い、日野市において、以下に示すメリットがあると判断し、小金井市と国分寺市との広域化について検討を進めています。

- ① 施設を集約することで、建設費、維持管理費が単独方式で建設するより削減でき、大幅なコスト削減が図れる
- ② 適正な施設規模による高効率な「ごみ発電」が可能となり、エネルギーの有効利用や地球温暖化防止に貢献できる
- ③ 安定した燃焼管理、高度な排ガス処理設備の導入が可能となり、ダイオキシン類の削減・有害物質の低減が図れる
- ④ 3市の共同事業により、より充実した周辺環境整備を進めることができる

広域化は、決して、小金井市のために行うものではなく、3市全てにメリットがあると判断し、広域化の検討を進めるものです。

Q2 広域化による施設の大型化により、市民のごみ減量に対する意識が薄れ、ごみゼロ推進が進まなくなる。特に小金井市・国分寺市は、自らの施設を持たなくなるので、より一層、意識が薄くなりごみ減量は進まない。

A ごみ減量や生ごみ資源化を3市共同で進めますので、各市のごみ減量意識が薄れることはありません。3市の市民による「(仮称)ごみ減量市民会議」も設置し、より一層のごみ減量を推進し、ごみゼロ社会を目指します。

また、ごみ量が増えれば、各市の処理費用の負担も増えますので、各市のごみ減量の取り組みが後退することはないと考えています。

なお、施設の大きさは、ごみ減量を進めた最小規模で設定します。

Q3 広域化を行うのであれば、建設地を現在の場所から白紙に戻し、3市の中から、もしくは、日野市全体の中から探すべきである。

- A 現在の場所における単独整備の計画を進める中で、小金井市、国分寺市から広域化の申し出があったことから、改めて、3市から、もしくは日野市全体から建設地の選定を行う考えはありません。広域処理を行う場合、次期施設の建設地は、小金井市もしくは国分寺市とするように2市と協議を進めていきます。

Q4 広域化のメリットばかり強調するが、デメリットの説明がない。

- A ごみ処理広域化のデメリットとして、処理量増加に伴う煙突からの排ガス量およびごみ収集車両の増加があります。

(1) 排ガス量増加への対応

① 厳しい排ガス基準の設定

排ガス量の増加に対しては、現在の施設よりも厳しい排ガス基準を設け、高度な排ガス処理設備を導入し、負荷量を抑えることで周辺環境への影響を非常に少なくしていきます。

② 定期的な測定（モニタリング）の実施

周辺地域の定期的な測定（モニタリング）を実施し、測定値の公表をしていきます。

(2) ごみ収集車両増加への対応

① 搬入経路の変更

ごみ収集車両の搬入経路を変更します。現在、ごみ収集車両は浅川の堤防道路を使用していますが、多摩川沿いの道路に変更します。

② 低公害車両への切り替え

ごみ収集車両は、天然ガス自動車などの低公害車両へ切り替えを行います。

③ 搬入台数の削減

小金井市、国分寺市からの搬入に関しては、各市の中でごみの積み替えを行うことや車両の大型化で搬入台数の削減をしていきます。

Q5 地元の理解を前提としておきながら、3市間で覚書を交わし、広報では広域化を進めるとしている。広域化は規定路線になっているとしか見えない。

- A 3市間の覚書は、国から建設費用の助成を受けるため、広域化とした場合においても、手続き上、支障が生じないように行ったものであり、広域化を決めたものではありません。

また、広報紙の内容は広域化を進めたいことを表現したものです。

地元のご理解をいただくための努力をし、丁寧な説明を行っていきます。

Q6 建設費比較において、日野市単独整備と広域設備のそれぞれの計算方法を意図的に変え、広域化が有利になるようにしている。

A この試算結果はあくまで現時点で比較するための目安です。単独処理の建設費は、平成20年度のメーカーヒアリング資料を基にした設計額を用いました。一方、広域処理は、過去10年間の他市の落札金額の平均から試算したものです。

仮に、平成20年度設計額を基に広域処理の建設費を試算した場合は下記の通りです。なお、いずれの試算も平成23年度の各市のごみ処理量の割合により算出しました。

過去10年間の他市落札金額の平均から試算した場合

単独整備 (平成20年度設計額)	広域整備 (過去10年間の落札金額から試算)	
建設費：約82.0億円 日野市負担：約60.4億円	建設費：約104.2億円 日野市負担：約34.3億円	日野市負担 マイナス約26.1億円



平成20年度設計額から試算した場合

単独整備 (平成20年度設計額)	広域整備 (単独整備の建設費を基に試算)	
建設費：約82.0億円 日野市負担：約60.4億円	建設費：約123.8億円 日野市負担：約40.9億円	日野市負担 マイナス約19.5億円

※「廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き（環境省）」に示されている0.6乗比例に係る経験法則に基づく積算方法を参考に、簡易的に単独処理（146t/日）の建設コストから試算

今後、日野市の負担額を軽減するため、3市間の協議を進めていきます。

Q7 広域化により大型炉を作った場合、将来、ごみ減量が進み、ごみが足りなくなるため、他地域からごみを集めたり、プラスチックを燃やすことにつながる。

A 施設の大きさは、ごみ減量を進めた最小限度の大きさとする計画です。日野市では、究極の目標として、ごみゼロ社会を目指しますが、5年、10年後に大幅にごみが減少し、燃やすごみがゼロになることは難しいと考えています。

ごみ処理施設は2炉あるため、ごみ量が少ない時は1炉運転による調整や、ごみピットによる調整が可能であり、他地域から無理にごみを集めたりすることはありません。また施設の設計は、プラスチック類を分別収集を想定して設計を行います。そのため、プラスチック類を過剰に燃やすことは難しくなるため、せっかく分別したプラスチックを燃やすことはありません。

Q8 現在、ごみ処理施設がある石田地区は、迷惑施設(焼却施設、し尿処理施設、下水処理施設、動物愛護相談センター)が集中している。この状況の中、さらに、小金井市や国分寺市のごみを受け入れることをどのように考えているのか。

A 日野市のごみ処理は、約半世紀にわたり、地元の皆様のご理解と多大なる協力により成り立ってきました。これまでのごみ処理の啓発活動において、日野市として、施設が立地している地元地区の状況説明・情報発信が不十分であったことを反省し、市民に対しホームページや広報等を活用し、地元の声を発信していきます。

また、新しい処理施設への建替えにあたっては、悪臭・騒音・大気汚染などへの対策に万全を期し、地元住民の皆様にご迷惑をお掛けすることのないように、最大限の配慮を行います。

3 今後について

説明会でいただいたご意見については、真摯に受け止め、参考とすべき点、さらに説明すべき点などを整理していきます。

ごみ処理の広域化は、複数の自治体が共同で、ごみの減量化・資源化に取り組み、焼却量や最終処分量の減量化を図ることで、循環型社会の形成を目指す取り組みです。

日野市では、この取り組みに対して、クリーンセンター地元地域の皆さまをはじめとした市民の皆さまに丁寧な説明を行い、ご理解を得られるよう努力を重ねてきました。

今後も引き続き、地元地域の皆さまに丁寧な対応を図っていきます。